

博士論文の審査結果の要旨

専攻	保健医療学専攻	分野	理学療法学分野・ 基礎理学療法学領域
学籍番号		院生氏名	神尾 博代
通学キャンパス			
論文題目	骨盤底筋群の収縮機能に及ぼす影響に関する研究		
審査結果 (枠で囲む)	合格		不合格
<p><審査結果の要旨></p> <p>1. 主論文について</p> <p>本研究は、妊娠や分娩により侵襲が生じることで、経産婦の生活トラブルを引き起こす原因となる骨盤底筋群に対する随意収縮困難者への最適なトレーニング指導方法を念頭に、股関節周囲筋群や立位傾斜角度が骨盤底筋群収縮に関わる影響を検討することを、目的としている。</p> <p>研究は二部構成となっており、いずれも首都大学東京大学院の研究安全倫理審査委員会(13036, 18078, 19018)の承認を得て実施していた。</p> <p>副論文で、骨盤底筋群の随意収縮や収縮が不十分なものが、測定した被検者の6割にも上ることが明らかになったため、研究1ではより効率的に骨盤底筋群を収縮させるために必要と思われる股関節周囲筋群が骨盤底筋群に与える影響について検討した。その結果、股関節を最大等尺性収縮を行わせた場合には、骨盤底が尾側に下降することが明らかとなり、股関節周囲筋群を単に収縮させるだけではトレーニングを阻害する可能性が高いことがわかった。そこで研究2では、随意運動以外からトレーニングをサポートするような因子を見つける目的で、背臥位から立位になった時の骨盤内臓器の影響を、立位傾斜角度を変えて検討した。その結果、立位傾斜角度 20 度で最も骨盤底筋群を収縮させやすくなることがわかった。以上の結果より、骨盤底筋群のトレーニングでは、股関節周囲筋群の収縮性を高めるトレーニングではなく、立位傾斜角度に注目してトレーニングを行う方が良いことを明らかにした。</p> <p>本研究の新奇性は、骨盤底筋群の収縮に影響を及ぼすと考えられる周囲筋群と姿勢変化に着目して研究を行った点であり、将来の骨盤底筋群強化の一指針になり得る点で重要な研究である。</p> <p>2. 審査経過について</p> <p>審査に先立ち乙種の受験資格ならびに副論文の審査を行い必要条件を満たしていることを確認した。審査前に一部論文内容の修正を指摘した。審査会は1回(2019年12月3日)実施し、研究内容、計測の妥当性、研究の限界および結果と考察の整合性について質疑応答を行い、一部副論文と重複している研究の削除や論文の背景が曖昧なところ、“テニオハ”等に修正が必要な点多々あったため、数度の書き直しを指示した。その後、最終的に提出された論文内容に問題ないことを確認した。</p> <p>3. 口頭試問の結果</p> <p>口頭試問においては、適切に研究内容について回答し、この分野の知識を十分に得ていることが確認できた。また、本研究の限界も熟知しており、今後の研究発展が望まれる応答であった。</p> <p>以上の結果から、審査会の審査員全員は本論文が著者に博士(保健医療学)の学位を授与するに十分な価値があるものと認めた。</p>			
論文審査担当者	主 査	後藤 純信	
	副 査	小野田 公	
	副 査	片山 雅史	